

社会人への第一歩 一緒に働こう！

障害者職場開拓における職場実習受け入れ事例集

社会人への第一歩 一緒に働こう！

障害者職場開拓における職場実習受け入れ事例集

発行：平成24年3月

文責：船橋市役所経済部商工振興課労政班

船橋市湊町2-10-25

TEL：047-436-2477

FAX：047-436-2466



船橋市役所 経済部商工振興課

はじめに

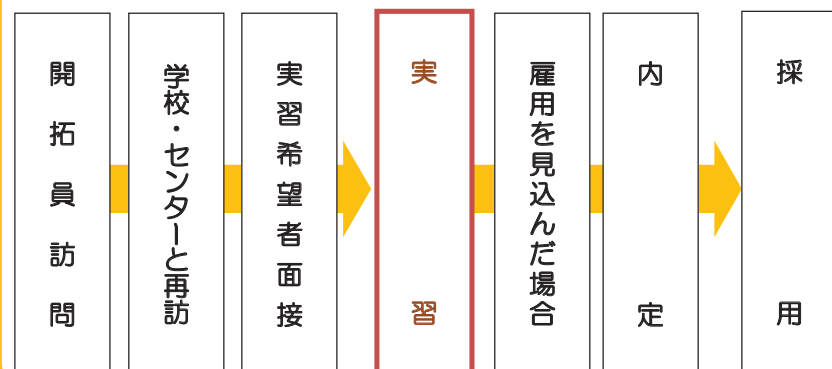
船橋市では、障害のある方の一般就労に向けた取り組みの一環として、職場実習の受け入れ事業所を開拓しています。これは、「市立船橋特別支援学校」「市立中学校特別支援学級」「障害者就業・生活支援センター」が通学・利用している市内在住の障害のある方の一般就労に向けた職場実習の機会を確保する目的でおこなっている企業開拓を手助けするため、市の開拓員が市内や近隣市の事業所へお伺いするものです。

「今まで雇用したことがない…」「障害を持つ方を雇用したいがどうしたらいいかわからない…」などの不安や疑問に対し、この事例集を、障害のある方を受け入れる際の、参考の一つとして活用していただければ幸いです。



船橋市経済部商工振興課

職場開拓の流れ



目次



職場実習事例紹介（特別支援学校高等部）

① まほろばの里・東船橋	介護	4
② 社会福祉法人清和園 セイワ習志野	介護	6
③ 船橋興産(株)	リサイクル	8
④ (有)海神ドット釦工業所	工場	10
⑤ 日本ピュアフード(株)船橋プラント	食品	12
⑥ (株)皆川	食品	14
⑦ 日本給食(株) 千葉支店	食品	16
⑧ (株)ユーハイム 船橋工場	食品	18
同 障害者就業・生活支援センターの例		20
知っておくと障害者雇用がわかりやすい用語		21
事業所担当者のひとこと		22





だれもがこの地域で生きる

まほろばの里・東船橋



所在地	船橋市宮本	
業 種	介護付有料老人ホーム	
実 習	作業内容	食事や訓練の準備他
	期間	3週間(14日)
	実習生	高等部1年男子

積極的な 実習受け入れ

古くからの住宅に囲まれた介護付有料老人ホーム まほろばの里・東船橋では、今までにも障害者職場実習を積極的に受け入れてきました。それは、「地域で当ホームがどう存在するべきか考えているから」と、ホーム次長の中井久雄さんは言います。

「障害があろうとなかろうと、要介護であろうと、地域の中で共に生きましよう、というのが私たちの理念です」。こういった実習の受け入れを通して、施設としてのあり方を再確認しているそうです。

利用者の好み ちゃんと把握

今回の実習生はとても明るく、入居者から「おにいちゃん、どこから来たの?」「学生さん?」などと声をかけてもらったこと



▲分からないことは積極的に質問

とで、緊張もほぐれたようです。実習前の面談で、どんな仕事を任せられるかを組み立てているそうですが、この生徒は、入居者のお茶や食事、おやつ

備もしなければなりません。おやつにしても、その日の状態で『居室で食べたい』という入居者がいたり、日々、違った対応が求められます。こういった細かい配慮も覚えましたが、分からないことがあれば積極的に聞いてくるなど、とても真面目な生徒さんでした。



▲掲示物を丁寧に張っていきます

高等部1年生の実習生だったので、

すぐに就職というわけではなく、仕事の体験としての実習でしたが、中井さんは「本人が次の実習も希望するのであれば、生活支援補助や居室のシーツ交換等もお願いしたい。ヘルパー資格が取れるのであれば、もっとお願いできることは増えますね」と期待します。

多様な業種で 受け入れを

こういった介護施設での受け入れも、徐々に増えてきました。しかし、様々な業種での検討

について、中井さんはこう話します。「障害者にも、秘めたる能力があると思っています。それを引き出して生かすのが、企業の社会的使命ではないでしょうか」。

「障害を前向きにとらえ、健常者以上に努力している人はたくさんいます」と語る口調は、何人もの障害者職場実習を受けているからこそその確信に満ちています。



▲熱く語る中井さん

今までは、学校や福祉作業所などからの直接の交渉でしたが、今回初めて市からのアプローチがあったことは、「地域」を大切に考える中井さんにとって、新しい可能性を感じられることだったようです。福祉ネットワークや情報提供により、「自分の住む地域にどんな施設があり、どんな人がいるのか」を、市民にもっと知ってもらいたいと願っているそうです。利用者の笑顔のため、彼らが新たな力となってくれるでしょう。



同業種の参考にしてほしい

社会福祉法人 清和園 セイワ習志野



所在地	習志野市秋津	
業 種	介護老人福祉施設	
実 習	作業内容	デイサービス補助
	期間	2期各2週間(10日)
	実習生	高等部3年女子

デイサービスでの受け入れ

セイワ習志野は介護老人福祉施設として、ショートステイ、ケアハウス、デイサービスなどをおこなっています。現在、知的障害者がひとり、利用者の衣類の洗濯をするリネン部門で働いています。副施設長の徳田昭彦さんは、系列の施設で障害者と共に働いた経験があり、実習や雇用の受け入れも前向きに考えています。

実習生は高等部3年生で、雇用を見込んだ実習を希望していました。明るい性格ですが、進路指導教諭によると「課題はフレンドリーな態度」。

徳田さんは、教諭との事前打ち合わせで、実習内容を「デイサービスでのお茶出しやレクリエーション補助」と提案しました。施設の1階がデイサービスのフロアで、職員が数名、常にいるため目が届くというのが理由です。

利用者の理解を求める

現場で指導をしたのは、相談員の酒井 寛さん。

出勤すると、まず玄関で利用者の出迎え。笑顔で「おはようございます」とあいさつをするのには2~3日で慣れました。そして、水分補給のためのお茶を準備し、利用者に勧めます。2週めには歓談する利用者に「お茶をどうぞ」と声もかけられるようになりました。



▲声をかけながらのお茶出し

利用者には、実習初日に酒井さんが「支援が必要な学生」と紹介しました。みなさんは、職員と同じようにはできないことを理解し、「17歳なの。がんばってね」などと温かく声をかけてくれたそうです。

酒井さんは、「レクリエーションの時間に『見守り』と指示をしたところ、理解ができなかったようで、『参加』と言い換えました」と話します。学校の進路指導教諭はそれについて「抽象的な指示や『気を利かせる』ことは苦手で、具体的な指示があったほうが良い」とお願いしたそうです。

この実習生は、実習前の約束「遅刻、私語はしない」はきちんと守って前期10日間を終了。時期を改めて2回めの実習もおこなわれました。「お茶の濃さや湯加減を自分で調整できるようになりました。また、認知症の利用者とパズルを楽しんでくれることで、利用者の感情が落ち着き、職員も助かっています。塗り絵では自分から『何色を塗りますか』と声をかけるようにもなりました」と酒井さん。徳田さんも「この様子なら、雇用も可能でしょう」とうなずきます。

迷っていたら見学に来て

現在働いている障害者も、以前はデイサービスでの仕事をしていたのですが、はっきりものを言う利用者に「叱られた」と思ったことが原因で人と接する部署での仕事が厳しくなったため、リネン部門に異動。結果、5年ほど勤めています。「このように、本人の希望や特性によって、働く場所を検討することが必要」と徳田さん。今回の実習生についても、指示の仕方について教諭からアドバイスを頂きました。

酒井さんは「受け入れが難しいケースもあるでしょうが、職員の勉強になり、利用者への対応にも生かすことができる」、徳田さんは「同業種で受け入れに迷っている場合は、見学に来ていただいても」とアドバイスをしてくれました。



▲徳田さん(左)と酒井さん



学校とのコミュニケーションが鍵



船橋興産(株)

所在地	船橋市高瀬町	
業 種	廃棄物処理	
実 習	作業内容	資源の異物除去
	期間	3週間(14日)
	実習生	高等部2年男子

実習受け入れ は7回め

廃棄物の中間処理場を持つ船橋興産(株)では、今回の職場実習が7回めとのことで、安村秀雄 総務管理部長も「それほど不安はなかった」と言います。それでも、初回は「どんな障害のある人が来るのか」と思っていました。工場には扱いを誤ると危険な機械があり、大きな音がするので、「障害者にどんな影響があるのか心配だった」そうです。

実際、以前の実習生の中には、大きな音にびっくりしてしまったり、閉所が怖くて積んだ箱の間で動けなくなったりして実習が中断した例もあります。あるいはその都度の指示が必要な人もいました。

安村さんは、学校に対してそんな不安を説明したり、現場を見学してもらったりしました。回を重ねるうちに、学校も同社の作業をよく理解するようになり、



▲缶の選別機の大きな音にも動じません

生徒の適性を見て選んで紹介するので、安村さんにも「先生との打ち合わせをしっかりすれば大丈夫」と、学校に対しての信頼が根付きました。

同社では既にひとりの障害者を雇用しており、「先輩を立てられる生徒」と希望も伝えたところ、進路指導教諭は、該当する生徒を探してくれたそうです。

危険な機械も ある現場

実習は、収集した発泡スチロール箱のシールはがしや、アルミ缶・スチール缶の異物除去。現場では、工場長の桐野正明さんが親身に指導してくれました。「けがのないように注意しただけ」と桐野さんはいいますが、こういった工場ではそれが一番大事なことであり、事業所の一番の心配でもあります。

今回の実習生は、今までに
なく軽度と感じられたよう



▲シールはがしも丁寧に

で、「ふたつの指示をしても順にこなすことができる生徒は初めてでした」と安村さん。「最初はあいさつの声が小さかったけれど、1週間でしっかり大きな声を出せるようになりましたね。それから、ふだんから体を動かすことが好きなようでよく歩いているそうですね。体力があるので、立ち仕事が多い現場でも無理なく作業ができていました」と、高評価を得ました。

学校への信頼 で不安解消

今後も、障害者の職場実習受け入れはおこなっていきたいと考えている同社。豊富な受け入れ経験に加えて、特別支援学校や支援機関との間に築き上げた信頼が、そんな姿勢をバックアップしているようです。

「学校とのコミュニケーションをしっかりとっていけば、不安は解消されるはず」と安村さんは言います。

今回は学校などとの直接交渉ではなく、初めて市が間に入りましたが、そのことで今までのバランスを崩すのではなく、企業として更なる安心感につながっていると感じている安村さんでした。



▲コミュニケーションの
大切さを語る安村さん



工場での経験をしてもらおう

(有)海神ドット釧工業所



所在地	船橋市栄町	
業 種	ボタン製造、換気扇フィルター洗浄	
実 習	作業内容	フィルター運搬他
	期間	3週間(14日)
	実習生	高等部 1 年男子

町工場での仕事の可能性

栄町の金属工業団地にある(有)海神ドット釧工業所は、金属ボタンなどを製造している町工場です。最初に訪問した時は、アッセンブリ(二次加工)に新しい従業員が入ったばかりでした。中村仁一代表取締役は「アッセンブリなら障害者にもできるかもしれないが、今は人手が足りているので…」と言いつつも、他にできる仕事はないか考えてくれました。

そして、「ボタン製造ではなく換気扇フィルターの洗浄部門であれば可能かもしれません」と提案してくれました。同社では、飲食店などの業務用換気扇フィルターの洗浄も手がけているとのこと。金属製のフィルターを、洗剤の入ったお湯で洗浄、仕分けして業者に届けるといったものです。「ここでも昨年、新しい人が入ったところではあるが、現場と相談して、実習であれば」。

同社では今までに障害者の雇用や実習受け入れの経験はありません。それでも、以前、中村さんはある集まりで聞いた、障害者雇用をしているプレス工場の社長の言葉が心に残っていたそうです。「真面目で、教えたことはちゃんとやる。びっくりしたよ。障害者と言っても心配することはない」。聞いた時は「そうなのか」



という程度でしたが、その言葉が「やってみよう」を後押ししたのです。

フィルター配達の責任者、米

◀ フィルターを運び、車に積んで数えます

村忠夫さんは、中村さんから職場実習の話聞き「障害者の知識はないが」と、洗浄したフィルターの仕分けで引き受けることに。乾燥機から台車に乗せたフィルターを運び出し、ケースに入れる仕事です。こうして職場実習が決まりました。



▲モップで床清掃

障害者のイメージが変わる

中村さんは特別支援学校の進路指導教諭に現場と従業員を紹介し、率直に「どんな子が来るのか不安」と伝えました。面接で生徒に会い教諭から彼の特性を説明されると、それまで持っていた「障害者」のイメージが変わりました。「障害とい

ってもいろいろなんですね」。

米村さんは「ニケタの計算で計算器を使いたがるのでなるべく暗算させたり、わざと席をはずして自分から声をかけるような状況を作ったり」しながら、温かく厳しく接したそうです。重いフィルターを落とした時は、けがが心配で真剣に叱りました。実習生は涙を浮かべましたが、その後は一度も危険な場面はありませんでした。

仕事が終わると「何かありますか」と聞いたりしてすっかり仕事に慣れ、「実習中は気を遣いましたが、終わってみると『いてくれて助かっていた』と思いますよ」と米村さん。



▲中村さん(左)と米村さん

障害者にもできる仕事は

現場が「OK」と言わなければ受けられないと思っていた中村さんですが、結果として「良かった」と感じています。毎日の日誌の記入がたいへんではありましたが、自分たちがやっている仕事に負担にならないか、ひとりで会社に来て精神的に孤立しないか…などの不安は「思ったほどでもなかった」そうです。こういう工場での障害者雇用は、規模や職種の面で厳しい状況ですが、「単純作業や簡単な仕事なら、できる障害者はたくさんいます。社会貢献として仕事の経験をしてもらいましょう」と、組合などの組織の活用も提案してくれました。



職場の見直しにつながった



日本ピュアフード(株) 船橋プラント

所在地	船橋市日の出	
業 種	食肉加工	
実 習	作業内容	製造補助、梱包
	期間	3週間(14日)
	実習生	高等部2年男子

刃物や機械がある職場で

日本ピュアフード(株)は食肉加工を手がけている会社で、船橋プラントではスライス、ステーキ、ハンバーグ等を製造しています。プラントでの障害者の職場実習受け入れは今までありませんでした。管理課長の菅尾清文さんは、「障害者との接点がない職場で『どこまでできるのか』という不安があった」と言います。

現場には、食肉をカットするための刃物類がたくさんあり、また、水を使うので床が滑りやすく、注意が必要です。障害者に危険回避がどの程度できるのか、全くわかりません。

最終的には、プラント長である今 博之さんに相談。今さんは「何をしてもらえるか、学校と話し合いたい」と希望しました。

開拓員と特別支援学校の進路指導教諭とで改めて訪問し、作業工程を見学した上で、「段ボール箱作りと袋のラベル貼り」「翌日使う資材の準備」で実習をすすめることになりました。

トレーナーの配置を希望

その後、再度の訪問で今さんと進路指導教諭が面談し、実習受け入れが正式に決まりました。今さんは青森プラントで障害



▲機械や刃物がある職場

者雇用の経験があり、同様に「機械を使わない製造部門の業務」として、食材の計量、袋詰め、箱詰めをさせてもらうことになりました。その際、トレーナー(担任教諭)を1週間つけることと、その結果を見て3週間まで延長することが条件として出され、学校は了解しました。

菅尾さんには障害者と接した経験がなく、「どう接したらいいか」がわかりませんでした。面接時の実習生と担任教諭のやり取りを見て理解できたと言います。

実習で一番の心配は「けが」でした。滑りやすい職場では歩き方の指導もします。これも担任教諭が入ってくれたことで、安心できたそうです。

実習生は、「従業員の手本になるほど」真面目であいさつもしっかりできていました。「単純作業なので集中力が切れてしまわないか心配でしたが、そんなことは全くありませんでした」。ただ、真面目さゆえ、動いているコンベアーの製品を追いかけてまでハンバーグの成型をしようと、注意したこともあるそうです。

食品を扱うため、その安全面にも非常に気を遣います。プラントでは30分ごとに、ふたり一組になって髪の毛と作業手袋の破損をチェックしています。「恥ずかしさからか外国人が多いからか、最初は戸惑ったようですが、2週めからはちゃんとできるようになりました」と製造担当の吉岡正臣さん。



▲ハンバーグの成型作業をします

職場の見直しにつながる

初めての実習受け入れでしたが、今では「実際、かなりできるものだ」と思っているそうです。家庭との連絡帳に、母親が「いつも見ているテレビ番組も見ず、早く寝て翌日の実習に備えている」と書いていたのが印象に残っているとのこと。

職場には、「障害者と健常者の区別なく働くことのできる職場」という雰囲気が生まれたようだとはいいます。菅尾さんは「この職場実習の体験が、今後、本人のプラスのひとつにでもなってくれば幸いです」。



親のような気持ちで接する

(株)皆川



所在地	船橋市高瀬町	
業 種	食肉加工・卸売	
実 習	作業内容	清掃他
	期間	3週間(14日)
	実習生	高等部 1 年男子

雇用は難しい
が実習なら

食肉を加工して飲食店や病院などに卸すのが、(株)皆川の業務。顧客が多く、それぞれの要求に応えた加工をしています。作業所には刃物が使われた機械があり、従業員は安全に気を配りながら作業をしています。

常務取締役の葛巻慎一さんは、「数年前に中学生の実習を受け入れました。今は雇用は厳しいが、実習なら協力しましょう」と当初から前向きでした。実際に実習に関わったのは、事務担当の本山友子さんと現場担当の山岡茂俊さんです。

本人を見て
仕事を決める

実習として「肉のパック詰めなどの補助的な作業も考えましたが、機械が危ないので、食肉加工員のサポート業務に決めました」(本山さん)。バット(かご)の洗浄、バックヤードや床の清掃、そして台車の整備です。具体的な内容を決めたのは山岡さん。「どういうレベルの仕事を任せたいか、一日様子を見て考えました。それが本人に合わせられて良かったのかもしれない」と言います。指導を担当することになり、山岡さんは従来の勤務シフトを変えて対応しました。

学校の教諭から「仲間とのコミュニケーションが苦手なので、課題はあいさつ」と聞いていた本山さんは、



▲機械の洗浄を指導

朝夕に大きな声であいさつをするよう、注意していました。他の従業員も、しつこく話しかけたりはせず、普通に接していたそうです。

順序立てて
仕事の説明を

今回の実習で一番良かったのは、「山岡さんが親のように接したことはないか」と本山さんは振り返ります。実習生の祖父と同じ関西弁で話すことも、親しみを増す要因だったようですが、家族や趣味の話をしたり携帯音楽プレイヤーでいつも聴いている音楽を聴かせたりして接していたそうです。「知らない人の中に投げられるように感じないか」との懸念からの措置でしたが、和気あいあいと明るい職場だったこともあり、本人がとてもリラックスして作業に集中できたようです。

山岡さんの指導のポイントは、「ただ命じるのではなく、なぜそうするのか、その結果どうなるのかをちゃんと説明すること」(本山さん)だったそうです。この14日間は「負担ではなく、初心を思い出しました。おかげで若返りましたよ」と、山岡さんは笑います。

実習の最後には、本山さんの提案で食肉の小分け作業もしました。2時間ほどだったそうですが、清掃とは違う仕事に「本人は『ちょちょいのちょい』と言っていた」とか。実際、決まった量になるよう袋に入れて計量する作業を、間違いなくこなしていたそうです。

山岡さんの勤務シフトを変更するなど、会社の協力もさることながら、やはり「親の気持ちになって仕事を教える」姿勢が、気持ちの良い実習につながったでしょう。



▲箱を拭いたり片付けたりの作業



▲山岡さん(左)と本山さん

レベルアップした次回を期待

日本給食(株) 千葉支店



所在地	船橋市中野木	
業 種	給食受託、食材卸	
実 習	作業内容	商品仕分け
	期間	3週間(13日)
	実習生	高等部2年男子

発作に関して
説明を受ける

学校などの給食受託と食材の卸を業務とする日本給食(株)千葉支店では、精神障害を持つ男性が働いていました。しかし、先の震災以来、恐怖心で出勤できなくなっています。以前も身体障害者が働いていたこともあり、障害者雇用に関しては、それほど抵抗はなかったものの、職場実習の受け入れは初めてでした。取締役支店長の清藤寿次郎^{せいとう}さんは、卸事業部課長の関 欣也さんと相談。食材ピッキングで受け入れることにしました。

しかし、特別支援学校から紹介された実習生は「てんかんを持っている」と知り、どんなときに発作が出るのかわからず心配ではありました。それでも、学校や保護者から服薬などの説明を受け、実習に踏み切ることにしたのでした。

几帳面で正確
真面目に仕事

実習生は几帳面で、エプロンの紐のねじれを直したり、空いた発泡スチロールはきちんと洗浄したり、また、たたんだ段ボール箱は角をそろえて積んだり、丁寧で正確な作業をこなしました。1週間を過ぎると大きな声であいさつをするようになり、様子を見ていた従業員も話しかけるようになったので、それに対してきちんと受け答えをしていました。

やはりけがを心配していた関さんでしたが、「背が高い生徒だったので、初日に仕切



▲清藤さん(左)と関さん

り板に頭をぶつけました。天井が低いところがあるんですよね。でも、その後は注意していましたし、けがもなく過ごせました」。そして「背が高いことは、冷蔵庫の上から物を取ってもらうのに重宝しました」。

実習では、主に野菜や味噌などの計量と袋詰めをしていました。野菜は、良し悪しをきちんと見分けましたし、グラム単位の計量もはかりを使って正確におこないました。

職場には女性が多く、真面目な仕事ぶりにお互いの緊張も次第に解けていったようです。「2週めに入って彼の表情が落ち着いてくると、周りの対応も変わってきたんです」。毎日、記録をつけて着替え、帰る後ろ姿を見ると「今日もけががなくてよかった」とホッとした関さん。「最後は一人ひとりに『お世話になりました』とあいさつしていました。従業員はちょっとさみしそうでした」。



▲食材を計量し、袋に詰めます

次回の実習に
大いに期待

「作業のスピードは遅めでしたが、13日間では仕方ないでしょう。もし彼が次の実習も希望したら、スピードアップと、自分から指示を聞くようになってくれたらいいですね」と清藤さん。関さんも「実習時間に融通が利くのであれば、食材の仕分けだけでなく荷降ろしの作業もできるとありがたい。うちの業務はそこまですから」と期待します。

企業によって勤務形態や内容は違います。同社でも、納品に来る業者は時期によっても日によっても違います。毎日の作業も、流れは同じですが扱う商品は日々変わります。「それにうまく対応できる人であれば、今後の実習や雇用も積極的に考えたい」と、清藤さんは言っています。

「誰かがついていなくてはならないでしょうが、自分の作業をしながら隣で見守るのであれば、それほど負担にはならないかもしれません。その都度チェックをすることもできるでしょう」と、現場を担当する関さんも可能性を話します。



仕事を決めつけず部署を探す

(株)ユーハイム 船橋工場



所在地	船橋市高瀬町	
業 種	洋菓子製造	
実 習	作業内容	番重(箱)の仕分け
	期間	3 週間(14 日)
	実習生	高等部 2 年男子

障害者雇用を推進したい

バウムクーヘンやケーキなどで名を知られる(株)ユーハイム。船橋工場の扉を開けると、甘い香りが漂っています。

同社は、全社的には障害者雇用率を達成していますが、船橋工場ではひとりとして、あと数人の雇用をしたいと考えていました。「良いタイミングで開拓員が連絡をくれた」と喜んだのは、総務課長の増田晋一さん。雇用したいとは思ったものの、どこに相談すればいいのかわからなかったのです。

「できれば雇用前提の実習を」と希望しましたが、特別支援学校高等部 3 年生は既に実習先が決まっており、まずは 2 年生の受け入れが決まりました。

機械を使わず仕分けで実習

実習の作業は、「番重」と呼ばれるケーキなどの箱の仕分け。打ち合わせでは番重の洗浄が提案されましたが、機械を使うもので操作が危険と判断。仕分けをすることになりました。

同社が使う番重は 10 種類で、製品に合わせてサイズやロゴが違います。まず、各店舗からトラックで運び込まれる番重から貼られているシールをはがし、洗浄のために種類ごとに分類します。

重ねられた様々な種類の番重をひと目で判断することが難しく、周りをぐるぐると歩いて確かめていたそうです。ただ、「受け答えに少し時間がかか



▲番重のシールをはがし

り、『暑くない?』『のどは渴いていない?』などこちらから聞かないと自分から言わないところがありましたが、あいさつはちゃんとしていたし、遅刻や欠勤もありませんでした」と増田さんは真面目さを評価します。

それぞれの特性の理解を

増田さんの不安は、障害者に関する知識があまりないことだけではなく、「自分の直轄ではない部署で受け入れること」でした。現場の4人の職員に事前の説明をし、理解を求めた上で、「実習期間中、みなさんが同じように接してほしい」ときめ細かい指導をお願いしました。「マンツーマンで指導をお願いできればよかったのですが、初めてでそれは難しかった」のです。



▲10種類の番重の仕分けをします

現在、ひとりの聴覚障害者がケーキ製造の作業をしています。彼と今回の実習生を見ると「同じ『障害者』でも特性によって働くことのできる部署は違う」と感じているそう。そして、「障害者が機械の特徴を理解し、けがや異物混入の事故がないように働いてくれるだろうか」という懸念もしています。食品を扱う職場では、これが一番の心配の種だとは、よく聞きます。

それでも増田さんは、「障害者雇用は企業の社会的責任。費用対効果を考えていてはダメです」と言い切ります。「不安を取り除くのは上司の責任」とは、自身の立場を再確認した言葉でした。そして、「仕事を決めつけない」と、障害者の特性を考え、新しい受け入れ部署も検討しているそうです。

同工場では施設のバリアフリーがまだ整っておらず、それが障害者雇用の幅を狭めているという悩みも持っている増田さん。今後も、雇用や実習の受け入れは積極的におこなっていきたいと考えており、就労希望者の職場実習についても関係機関と話を進めたいとのこと。



(株)ユーハイム 船橋工場が「障害者就業・生活支援センター」の利用登録者を受け入れた例を、次ページで紹介しています

(株)ユーハイム 船橋工場 その2

「障害者就業・生活支援センター」利用登録者の職場実習



雇用前提の 実習受け入れ

障害者雇用を積極的に進めたい(株)ユーハイムには、開拓員が久保学園障害者就業・生活支援センターを紹介。

ふたりの希望者がそれぞれ9日間の実習をしました。



▲番重のふたを洗浄機にセット

作業の内容は、特別支援学校の時と同じで番重の仕分けですが、学生と違い、雇用前提なのでもう少し高度な、機械を使う洗浄作業も体験しました。

その結果、採用が決まったAさんは40代。今までに働いた経験があり、コミュニケーションや作業スピードにも問題は感じられませんでした。共に

働いた職員からも「彼ならOK」と太鼓判を押されました。

実習と同じ部署で働き始めて10日。手際よく仕事をこなすAさんは、洗浄した番重を他の階に運ぶ作業も任されています。増田さんは、「現場責任者との相性も良いのでしょうか」と言いつつ、「Aさんには今後は製造ラインなどで働いてもらう可能性もあります」と期待しています。

Aさんは、「仕事には慣れました。給料はお母さんに渡し、残りは貯金とお小遣いにします」と働く喜びを語り、今日も「おはようございます」と元気に出勤しています。

同社では「最終的には10人ほどを雇用したいと思っています。今後も障害者就業・生活支援センターと連絡を取り、雇用前提の実習を受けていくつもりです」。Aさんの様子を見にきたセンターの支援員も「企業と良い関係を継続していきたいですね」と希望しています。



▲担当の増田さん



知っておくと障害者雇用がわかりやすい用語



特別支援学校

「学校教育法」第八章「特別支援教育」に定義される、視覚・聴覚・知的障害者と肢体不自由者または病弱者に対して小・中・高等学校に準ずる教育と、学習・生活上の困難を克服する知識を授ける学校。

船橋市内には「千葉県立船橋特別支援学校」と「船橋市立船橋特別支援学校」があり、「特別支援学級」が置かれている小中学校もある。この中で市立の特別支援学校中・高等部と中学校特別支援学級に通う生徒は約390人。

また、近隣の市川、柏、我孫子、流山各市にある県立の特別支援学校や、盲・聾学校に通う船橋市在住の生徒もいる。

障害者就業・生活支援センター

都道府県知事が指定する社会福祉法人やNPO法人などが運営し、身近な地域で障害者の就労とそれに伴う生活上の相談・支援を一体化で実施。就労準備や職場定着に関する支援や助言もおこなう。

千葉県内には16ヶ所あり、船橋市は「久保学園」の圏域になっているが、「あかね園」(習志野市)などを利用している障害者もいる。

障害者雇用率制度

「障害者の雇用の促進等に関する法律」において、事業主が雇用する労働者に占める身体・知的障害者の割合(精神障害者は義務対象ではないが算定可)。現行は、常用労働者数56人以上の民間一般企業で1.8%などの定め(一定期間で見直し)があり、未達成事業所はハローワークから雇入れ計画の作成などの指導がある。

これと合わせて「障害者雇用納付金制度」が設けられており、障害者雇用によって生じる環境改善の経済的負担を調整する目的で、常用労働者数201人以上(平成27年4月から101人以上)の雇用率未達成企業から納付金が徴収される。

㊤船橋市障害者職場実習奨励金／㊤同 雇用促進奨励金

船橋市在住の障害者を㊤職場実習として受け入れた事業主(市外でも可)と㊤ハローワークを通じて新たに雇用した市内事業主に支払われる奨励金制度。期間や手続きに条件があるので、詳細は問い合わせを(船橋市役所経済部商工振興課労政班 TEL047-436-2477)。

障害者雇用助成金・奨励金

障害者雇用に関して、さまざまな助成金・奨励金や制度がある。詳細は管轄のハローワークに問い合わせを(ハローワーク船橋 TEL047-431-8287)。

参考：厚生労働省HP、文部科学省HP、千葉県HP、船橋市資料
『新版・職業支援ハンドブック』(独立行政法人 高齢・障害者雇用支援機構、2009年)

事業所担当者



誰にでも、得意不得意はあります。とりあえず受けてみてください。なせば成る!

船橋港業(株)
営業係長 堀口 和敏さん



住宅型有料老人ホーム
イリーゼ船橋三咲
施設長 山田 利恵さん

職員は、実習に立ち会うことで、ものを教える大切さを学び、改めて優しさや仕事への想いを自覚したようです。今の仕事に役立つかもしれないので、いろいろな経験ができるチャンスととらえてはどうでしょう。

仕事を通して目標を持つことが存在価値の確認や自信につながるのは、障害者の方も同じ。



イオンフードサプライ(株)
南関東センター管理課長 和田 修さん

企業としても、障害を持った方と接する機会を多くの場面で設ける必要があると思っています。

の ひとこと

本人やご家族の状況を事前にしっかり聞き、現場で共有できると安心ですね。

社会福祉法人
特別養護老人ホーム船橋百寿苑
相談室長 平尾 悟さん▶
▼黄^{きう}海さん(左)、三柴さん(右)



実習生の得意なところを見つけて、決められた中でどう生かして動いてもらうかが、ポイントだと思います。

実習生の元気なあいさつを聞くと、私たちの働く意欲が湧きます。大きな声で誰にでもあいさつをする、そのことから「働く基本」を改めて教えられます。



本人や家庭のことなど、学校からしっかり情報を得ることが、安心のモトです。

協同乳業(株)
製造課総務担当 飯田 匡さん



……………ご協力ありがとうございます。